

## 第61回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年8月25日（金） 9：59－11：19

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、遠藤委員、後藤委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙活動法に基づく技術基準等の検討状況について

宇宙開発戦略推進事務局、関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答)

- 宇宙活動法は、ルール作りを通じて、民間の事業者の参入を促すものと理解しており、①JAXAの活動を阻害しない運用にすること、②国際標準等が記載されるガイドラインを充実させること、③新規事業者の新しい技術に柔軟に対応できることの3点が重要と考える。
- 今後、i-space社など、軌道を外れて月などで探査活動を行うようなケースも出てくると想定されるところ、探査機などについては、この度の技術基準にどの程度規定される予定か。
- 本基準では、探査機も含めたものになっている。具体的には、「他の天体の環境汚染の防止」という規定などを考えている。なお、解釈・運用については、国際的な標準を参考にガイドラインで記載する予定。
- 今後、新規参入者を促すには、ガイドラインの充実が必要。また、勉強会などを通じて周知も必要。

(2) 国際有人探査に係る検討状況について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答)

- 国際宇宙探査は、日米を中心とした国際協力がベースにある。現段階での我が国の国際競争力も踏まえた上で、今後内容の具体化が必要。その際、限られた予算の中で効果的に成果を出していくためにはどうすべきかについて、しっかり考えていくことが必要。人材育成については、前向きに進めていくべき。
- 宇宙探査は工程表の中でどのようなスケジュール感か。また最終的なゴールは何か。
- ISEF2に向けて、現在、文科省の委員会とも連携しつつ、宇宙探査の考え方を議論している。
- 新たな国際協調体制づくりが大変重要。ISSはこれまで5極体制で進めてきた。ISEFでは、さらに多くの国が入って議論が行われている。今後、外務省などの関係省庁も含めて、国際協調体制について、深掘した議論が必要。
- 限られた予算の中でどうやっていくかが見えない。選択と集中をどうやっていくのかしっかり議論が必要。

(3) 国立研究開発法人宇宙研究開発機構の評価及び今後の見直し内容について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 次期中長期目標の策定に向け、今年後半での議論をしっかり行っていくことが重要。

#### (4) その他

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答)

- 宇宙関連の予算確保について、どのようなコンテキストで進める予定か。
- 政府全体の来年度の概算要求は、人材育成など未来投資につながるものに重点化されることになっている。宇宙は、未来投資として日本再興戦略の中核にしっかり位置づけられている。
- 宇宙も大きな旗を立てて、日本再興戦略の中核として、やっていくべき。
- データ活用型社会と絡め、宇宙のデータを活用するといった「利用型」の整備に向けて、実証事業の実施など、予算的措置が必要。

以上